

何事も本気で必死に取り組めば、絶対に結果は出せる。熱く生きてほしい!

ファイトマネーを全額寄付する介護士プロボクサー 大沢宏晋

僕は高校を中退しているんですよ。きっかけは両親の離婚。むちゃくちゃショックが大きくて、精神的に不安定になって…。

その後は荒れてしまって、いつも不良仲間とケンカなど悪さばかりやってきました。そんな僕を見かねた友達がある日「お前、このままやったら堅気の道を踏み外してまうぞ。お前にびったりのところがあるから行こう」と連れて行ってくれたのがボクシングジムだったんです。

トレーナーに「そのサンドバッグを3分間殴ってみろ。それができたら褒めたるわ」って言われたので、3分間殴りきったんですよ。そしたらトレーナーがびっくりして、「リングの上には金がいっぱい落ちてる。お前やったらそれ拾えるから一緒にやるうや」と言いました。当時は貧しかったし、「人を好きなだけドツいて金もらえるなんて最高やん」って思って、17歳の終わりごろに、ボクシングの世界に入ったんです。

この日を境に悪い仲間と縁を切って、ボクシング漬けの生活になりました。必死で練習して入門3か月でプロテストに合格。半年後にプロデビューが決まりました。ファイトマネーは現金でもらえるんじゃなくて、ジムからチケットを渡されて、それを自分で売った分のお金が収入になります。そのチケットの束を親父に見せて、「これ売ったらお金がもらえるねんて!」って話したら、なんと全部取り上げられてもうたんですよ。「何すんねん! 俺が命懸けでドツキ合って稼ぐ金やぞ!」って食ってかかったら、「お前がもっててもろくなことに使わんから人様のために尽くせ。このチケットは全部寄付する」って知り合いに全部ただで配ってもうたんですよ。

デビュー戦は倒し倒されの激戦の末にドローで、悔しくて泣きながらリングを降りました。そのとき、知らないおっちゃんに「今日チケットもらって来たもんやけど、いい試合見せてもらったよ。おおきに」って声を掛けられました。その言葉に胸を打たれたんです。それまで人から感謝されることなんてなかったですから。こんなに感謝してくれるんならもっと多くの人に喜んでもらおうと、それ以降も試合のチケットを全額福祉施設に寄付するようにしたんです。その分の生活費は他の仕事で稼ぐことにしました。

2007年には親父が介護に関する仕事をしてたこと、子どものころからおじいちゃん子でお年寄りが好きだったので、ホームヘルパーとして働き始めました。以降、現在に至るまでプロボクサーと介護士の二足のわらじを履いて活動しています。介護士の仕事も試合の直前まで、月曜日から金曜日までフルタイムで全力で取り組んできました。ボクシングの練習もハードなので両立はしんどくないですかと聞かれることも多いのですが、しんどいと思ったことはありません。しんどいと思うからしんどくなる。要は気持ちのモチようちゃうかなと。しんどい言いながら嫌々やるんなら辞めた方がいい。はっきり言うて生きてると8、9割はしんどいことで、楽しいことや嬉しいことは残りの1、2割しかない。でもそれがあるから人って生きていけるとちゃいますかね。些細なことでも必死で本気でやれるやつが一番強いと思います。

だから高校生の皆さんにも、小さいことでも必死で本気で取り組んでほしいですね。その方が同じことでも何倍も楽しめるし、周りも応援してくれるし、結果も出せるから。本気になれることが見つからないという子は、自分から外の世界に飛び出してどんでんいろんな人と会えばいいよと言いたい。僕もそうしたことでボクシングにも出会えて今の自分があるので。とにかく後悔のないように、熱く生きてほしいです。



Hiroshige Osawa

おおさわ・ひろしげ

1985年大阪生まれ。高校を1年で中退。2003年にボクシングを始め、2004年にプロデビュー。以来、ファイトマネーは全額、大阪市の障害者施設に寄付している。2007年に介護ヘルパーの仕事を開始。2011年OPBFフェザー級チャンピオンに。2012年、介護施設「げんきデイサービスセンター」を設立。2012年12月から1年間ライセンス停止後、復帰戦含む7連続KOを経て2016年、WBO世界フェザー級タイトルに初挑戦。7R TKOで敗れる。2019年、再び世界への挑戦を模索中。